

2020年10月31日(土)

老球の細道572号

## 10月の言葉

バスケットボールコーチ 室井 富仁

TV番組で豊臣秀吉と千利休の「一輪の朝顔」の話を観た。それ以来私も我が家の軒下に咲く一輪の朝顔を毎朝眺めることから一日をスタートした。その朝顔も10月いっぱい咲き続け、孫たちの幼稚園送迎、縄跳び練習、かけっこ練習を見守り、遂に力尽きた。千利休の美学は理解できなかったが、権力者と違った価値観を持つことはいずれ排除の対象となることを学んだ。秀吉も「総合的、俯瞰的」に判断したのだろうか。突然流行語大賞か！

### 1・テレビから

◆「忍者の心の鍛え方は“三病”を避ける。①恐怖②考えすぎ③敵を侮る」〈NHK：知恵泉：忍者の心の鍛え方、不動心を保つには〉：孫娘が幼稚園から「忍者修業終了証」をもらってきた。今はちょっとした忍者ブームらしい。忍者は「三密」でなく「三病」を避けるトレーニングを欠かさないと。自分の限界を知ることによって恐怖がなくなる。中途半端に知ることによって余計なことを考える。敵の情報を正しく知り、自分の能力を正確に知り、的確に判断する。

◆「わが道は人々の心の荒地を開くことを本意とする。心の荒地が開けたならば土地の荒地は何万歩あろうと心配することはない」〈BS・TBS：歴史鑑定：二宮金次郎の偉業〉：その昔、鬼嫁の実家の農地開墾に関わったという二宮尊徳。今でも近くに尊徳碑が残っている。コーチングも農地開拓も原理原則は共通。人々のやる気をいかに醸し出すか。

### 2・読書から

◆「異端であることを恐れてはいけない。昨日の異端は今日の正当である」〈丸山真男『文明論の概略を読む』岩波新書〉：高校生の頃一人でウエイトトレーニングをしていて皆に笑われたが今ではバスケット選手の必須トレーニング。何事も他人がやっていないことに目をつけ先取りすることが快感である。その時の多少の批判は授業料と覚悟すべし。

◆「二つのことには彼は決して金をおしまなかった。書物の購入と葉巻とである」〈丸山真男『文明論の概略を読む』岩波新書〉：誰の影響か忘れてしまったが、若い頃「頭（本の購入）と腹（食べ物）とバスケットボールにはお金を惜しむな」と豪語していた。「荒野の年金マン」になってからは豪語する勇気もなくなってしまった。しいて言えば孫へのトミカか。

### 3・新聞から

◆「はじめにおわりがある。抵抗するなら最初にせよ」〈朝日：日曜に想う：むのたけじ〉：反骨のジャーナリスト、故、むのたけじが戦時の苦い反省から絞り出した警句。小さなことを見逃しているうちに大きな災い（戦争）を招いてしまった。気が付いた時は手遅れだということを教えてくれる。コーチングもジュニア期の基本をなおざりにすると未来はしかり。

◆「僕は過去たくさん粘ってきた経験があるけれど、やっぱり粘らないとだめなんです」〈朝日：B1北海道折茂社長〉：チーム倒産の危機にある時に自分の貯金を崩してチームを維持してきたという。基本は何事もネバー・ギブアップ、ネバー・ツー・レイト、ネバネバ納豆。